

第5回技術諮問委員会（TAC：Technical Advisory Committee）議事録

日時：平成28年5月30日（月）～6月2日（木）

場所：電力中央研究所 大手町本部会議室

出席：

技術諮問委員会（TAC）：ステットカー委員長、
アフザリ委員、チョクシ委員、
ミロクール委員、高田委員、山口委員

電力中央研究所：原子力リスク研究センター（NRRC）

産業界： 東京電力、四国電力、電気事業連合会

議事概要

今回の会合においては、すべて全体会議の形式で行った。また、一部の議題については、情報提供のセッションとして、フランスの状況や日本の状況について情報を共有した。

5月30日（月）

議題1：リスク評価分野研究

- ・NRRCより、火災PRA、及びHRA (Human Reliability Analysis)、格納容器内対流挙動に関する研究、及び前回TAC報告書で推奨された5つの研究項目の検討状況について説明した。
- ・TAC委員より、以下のコメントがあった。
 - 火災PRAに関して、火災事象の分類のための明確な基準を策定することが必要である。
 - HRAについては、ガイドラインの適用範囲を余り絞り過ぎない方が良い。将来的には、外部事象の解析や、レベル2の解析においてもこのガイドラインを一貫して使えるように改良するのが良い。また、逸脱シナリオについては、ガイダンスや具体例をもう少し追加した方が良いと思う。

（配布資料）

1-1 Current status of fire PRA research

1-2 Study on the evaluation of convection behavior in containment vessel

- Summary of outcomes of the 2015 fiscal year-

1-3 NRRC HRA Guide & HRA Upgrade

1-4 R&D items recommended by TAC -current status-

5月31日（火）

議題2：自然外部事象分野研究

- ・NRRCより、SSHAC（Senior Seismic Hazard Analysis Committee：専門家による地震ハザード解析委員会）による地震ハザード解析の実施状況や、津波フラジリティ、地震フラジリティ、竜巻、火山に関する研究状況について報告した。
- ・TAC委員より、以下のコメントがあった。
 - 津波フラジリティ評価では実プラントの特性を踏まえた実践的な検討により高度化を図るべきである。
 - 火山の降灰シミュレーションについては、まずは既存のデータと整合性を持ったシンプルなモデルを作ること勸めたい。シンプルなモデルからスタートし、その上で重要な要素があると判断されれば、その部分を高度化していくという手順が良いのではないか。

（配布資料）

2-1 Current Status of SSHAC Project

2-2 Tsunami fragility

2-3 Progress of research on seismic fragility evaluation

2-4 Tornado

2-5 R&D related to Volcano Hazard

6月1日（水）

議題3：フランスにおけるリスクマネジメントの実施状況

TAC委員のミロクール氏より、フランスにおけるリスクマネジメントの実施状況について講演を行った。

議題4：伊方プロジェクト進捗状況

四国電力より、伊方発電所3号機におけるPRAの進捗状況について報告を行った。

（配布資料）

4-1 Ikata Unit 3 Project Update

6月2日(木)

議題5：日本の原子力事業をとりまく情勢について(情報提供)

電気事業連合会より、日本の原子力事業をとりまく情勢を紹介するとともに、リスク情報を活用した意思決定プロセス導入のための産業界の取組み方針について紹介を行った。

議題6：東京電力柏崎刈羽原子力発電所におけるPRAの実施状況について(情報提供)

BWRのパイロットプラントとして、今後柏崎刈羽6,7号機においてPRA高度化を進めていくことから、東京電力より柏崎刈羽原子力発電所におけるPRAの実施状況について紹介を行った。

(配布資料)

6-1 Current Status of PRA in Kashiwazaki-Kariwa N.P.S

6-2 Kashiwazaki-Kariwa Implementation Details